「市長と住民のこんだん会」～臥雲市長へアタック！地域の元気な声を届けよう～（レポート）

１　日　　時　令和４年９月６日（火）　１６時３０分から１８時３２分
２　場　　所　波田公民館２階大会議室
３　こんだんテーマ　波田地区の移動支援と農業の未来について
４　参　加　者　臥雲市長、産業振興部長、交通部長
梓川高校生３名、波田まちづくり協議会循環バス運行部会員２名、
町会連合会２名、波田地区農業未来会議員４名　計１４名

１　市長挨拶

２　波田地区紹介

（リニューアルした電車と三溝のフラワーゾーン）
波田地区はアルプスの玄関口に位置づけられている。

産業は、農業と山林用の苗木が盛んで広い耕地に作付していることから農業が主流

（スイカ畑：松本平を見渡せる段丘の上から）

（桃畑の桃の花）

３　波田地区の２点の課題
⑴　高齢化の進行による移動困難者が増加していること（移動支援について）
⑵　農業従事者の高齢化にともない、農地の保全、維持管理について考える必要があること（農業の未来について）
この２点について、懇談しました。

４　こんだん内容

⑴　移動支援について

ア　意見発表　「循環バスの運行状況について」

波田まちづくり協議会　循環バス運行部会　宮沢部会長

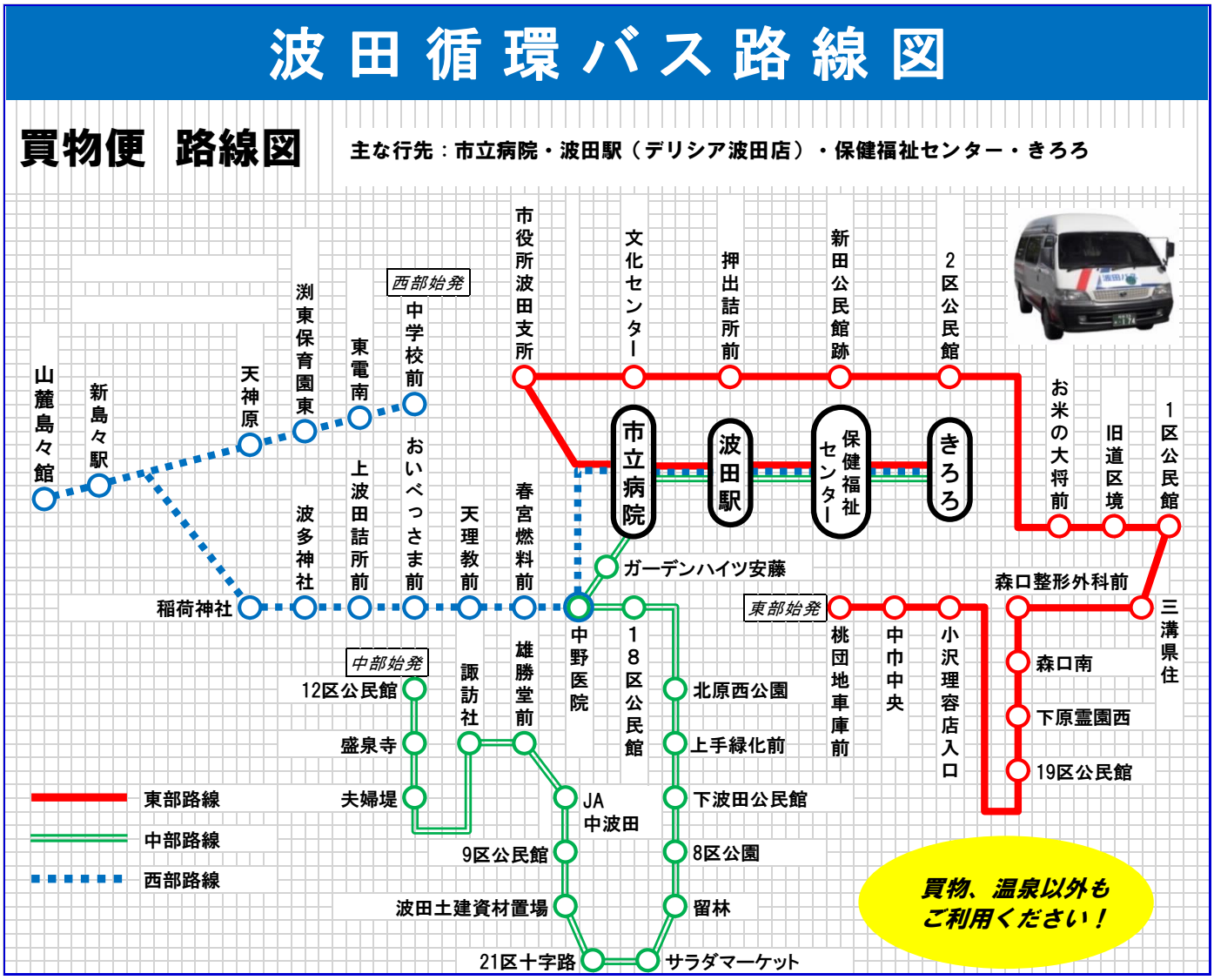
循環バスの歴史

（循環便）

平成２５年に地区の町会連合会が循環バスの実施を決定し、同年８月に循環バスの出発式を行い、運行開始となる。

長野県地域発元気作り支援金、松本市地域主導型公共交通事業補助金を受け事業を行う。

現在の循環バス　循環便４ルート、温泉便（コロナで運休中）２ルート



アンケート調査

地区内の皆さんへ昨年度末から、循環バス、温泉便について、アンケートの調査を実施し、現在検討中です。

改善すべき点があれば実施したいと考えています。

高齢者が増加

私の町会では、９月に敬老の日があり、７５歳以上の方々に祝賀としてお祝いを差し上げています。昨年度の該当者は８７名でしたが、今年度は９９人と、一気に１２名増えました。男性数は４７名と同じですが、女性は昨年度４０人が５２人に増え、交通手段を持っていない方が増えたと感じています。

買物に対する交通手段が必要

駅前にデリシアがある。駅に来る方法。アイシティに買い物に行く、あるいは町の中に買物に行くケースがあることから、店に行く交通手段が必要という方が非常に多くいると考えています。

少子高齢化の時代に突入している中、市の補助金は循環バスの運行に欠かせないものであることから、支援を継続していただきたい。

イ　意見発表　「温泉便の課題・検討事項について」
波田まちづくり協議会　循環バス運行部会員　中野町会連合会長

温泉について

新型コロナウイルスの感染が拡大した事情で、温泉自体の受け入れ体制が悪くなった。セーブして受け入れているので、バスを運行しても温泉に入れず帰らなければならない事情があることから、温泉便は現状運行中止となっている。

コロナが収まったら、復活させようという意見があります。高齢になるとお風呂大好きな人が多く、温泉便は温泉に行ってこそ温泉便であるので今研究しています。

アンケート結果から

温泉便は大事だ、運行しないのは寂しい、という意見が多かった。

温泉便が毎週水曜日に運行していますが、今度は温泉便を循環バスの一部に回すなど、全体の運用を考えています。

高齢者が免許を返納する、車も返すという状態がこれから増えていくと思います。

バスの運行、電車の運行につきましては、続けていく必要があるので、ご支援の継続を切にお願いします。

市長

（臥雲市長）

松本市の路線バスにつきましては、アルピコ交通が担って行いますが、だんだん採算の取れないところは路線を運行しなくなりました。廃止路線をそれぞれの地域の皆さんに運行していただく形で、松本市が補助金を支給するという形で地域バスというのも波田も含めて運行を続けています。

今回、路線バス全体のあり方を持続可能な状況にするにはどうしたらいいかということ、アルピコが運行していたバスを少しでも利用者が増えるようにすること、公設民営あるいは公民連携と、こういう旗印のもとに、路線のあり方や、少しでも利便性が上がるようなバスのあり方を昨年から運行会社や、バスの専門コンサルタントとともに検討を進めているところです。

この地域バス、循環バスを含めた、公共交通のあり方について、それぞれの地域の事情に合わせたやり方を検討しています。

この周辺では、梓川地区において、新たに地域バスをどのように運行できるかということの検討を進めさせていただいています。

もっと大勢の方に乗りやすい地域バスにして、そして少しでも高齢化が進んで自力で運転ができない方々に対して、移動の手段を提供していけるかということが、高齢化が進む中で大きな課題となっています。

まず、交通部長から現状の波田における循環バスの状況、そして今、梓川でどのようなことを新たに検討しているのかについて、報告させていただきます。

交通部長

波田地区は、コミュニティバスというＤ線、Ｅ線が現状運行をしています。

公設民営化を検討する中、波田地区を通っているコミュニティバスも、再編という形で見直しをしており、地元の皆さんにも何回か説明させていただきました。

波田地域の地域型のバスについては、年間で大体述べ人数で１４０人くらいのご利用があります。１便あたり大体３．５人ということで、それなりにご利用いただいています。

更にサービスの利便を良くするため、公設民営化の中で見直しを行いますが、まずは当初案で運行させていただく予定です。

今、市の方でモデル的に取り組んでおります梓川地区の取り組みですけれども、梓川地区もコミュニティバスのＣ線が通っておりまして、波田駅とか、新村駅に接続ということで上の方は八景山から下の方は倭、梓川地域全体を今運行しております。これを２系統に見直しをして来年４月に定時定路線でスタートさせます。

梓川地区は、ラストワンマイルという自宅の近くから、梓川支所とか主要なバス停まで移動する手段を使って、高齢の方をどうやって運ぶかというところを、地元の皆様と協議させていただく予定です。

この移動手段をデマンド交通と言って、電話をして、何時頃来て欲しいって言ったときに、例えば１時間の範囲内で、３名のお客様の移動リクエストがあった場合、その３名の自宅を回って、バス停の梓川支所等に運ぶかというものがデマンド交通になります。

運行体系は、梓川地区全体ではなくて、３ブロックとか４ブロックに分け、そのブロック中の移動をどうし支援していくか、また、料金をいくらにするか検討しています。

デマンド交通は、バスとタクシーの中間ぐらいをイメージしていただければと思います。

意見交換

山田

波田の場合、他の地域バスと違い、地域内の移動だけのことになっている。三才山・中山のように他地区は、交通機関が廃線になったところを代替で運行している。

循環便がいいなと思ったのは、年々便数を増やしている。便数を増やしても、１便当たりの利用人数は減ってない。ということは、若干でも固定の利用者以外に、新規の方が増えていると思います。

今後、高齢者が増えてくる場合、より利用しやすいものにしていくために、今の便数で良いのかなどを、部会の中で検討している最中です。

一番今困っているのは、温泉便です。

温泉便は大体１便当たり１５、６人から２０人まで乗っている便でした。早めに復活して欲しいと思っています。

温泉便の運行は、指定管理者の方の大変な制限がありまして、行っても入館できなければそのまま帰ってこなければならない状態になっていることから、運休中となっています。何とか温泉便が早目に運行できるよう、コロナが収まるように願っています。

（こんだん会の様子）

梓川高校生徒Ａさん

梓川高校の前にバス停が欲しいのですけど、その場合、どこに相談したら、実現できますか。

交通部長

梓川高校の前にバス停っていうご希望ですね。今回、コミュニティバスのＤ線の見直しの中で、朝と夕方だけ梓川高校までバス路線を延ばす予定です。

まず来年の４月から。始発のアイシティから、波田駅を経由して梓川高校までというＤ線の延長を今予定しています。まず利用状況を見させていただきたいと考えていますので、ご協力いただきたいと思います。

司会

梓川高校から、どこの方に行きたいということで、バス停が欲しいのですか。

梓川高校生徒Ａさん

通学で、今言ってくださったように今の状態だと梓川高校に一番近くに停まるのはＥ線の保健センターまでしかバスが通ってなくて、そこから梓川高校に行くのにはちょっと距離があるってことで、梓川高校まで延ばして欲しいっていうことです。

司会

お住まいは波田ですか。

梓川高校生徒Ａさん

私は波田なのですけど、山形から来ている子のことです。

交通部長

山形の地区の方については、今のＤ線を梓川高校に延長するという路線でカバーできると思いますので、まずご利用ください。

また、ほかの時間帯に欲しいとか、ここまで伸ばしてほしいとか、そういったものがあれば交通部の方にご連絡いただければ検討させていただきます。

司会

波田支所、地域づくりセンターにもどんどんお話をしていただければ、案内させていただきたいと思います。

梓川高校生徒Bさん

コミュニティバスの本数を増やすことは可能ですか。

交通部長

増やすということはできます。ただし、現状の見直しで来年４月からスタートさせていただきたいと思っています。なお、この時間帯にもう１本欲しいとか、あの時間帯とか具体的な希望いただければ、よりわかり易いと思います。まず使っていただいてから、ご要望等あれば交通部とか地域づくりセンターにご連絡いただければと思います。

司会

再編をするという案を交通の係の方からの町会連合会にもお話をしているところです。

新しいコミュニティバスが来年４月からどうなるのか、というようなところについては、波田地区地域づくりセンターに来ていただければ、ご案内できます。できるだけコミュニティバス、循環バス使っていただければと思います。

梓川高校生徒Ｃさん

バスことではなく、電車のことになってしまうのですけど、上高地線の電車を利用する生徒さんから上高地線の運賃が高いっていう意見が出ていて、何か学生に対して割引だったり、電車の運賃を下げてもらったりすることは可能になりますか。

交通部長

上高地線はアルピコ交通さんが運行しています。

今回公設民営のパスの関係では、これから運賃政策ということでバスの運賃をどうしていくかというのは、ここ二、三年のうちに検討して、ある程度方向性を出していかなければいけないと考えています。

それと並行して、上高地線の運賃をどうしていくか、あるいは上高地線そのものをどうしていくか、というところも含めて市としてどう関わっていくかというのは、検討しなければいけないと思っております。

市の関与を強くするということになれば、市として検討していかなければいけないのかなと思っていますので、もうちょっとお待ちください。

市長

高校生の皆さんありがとうございます。

先ほどの循環バスについても、上高地線の利用についても、お年寄りの視点でお年寄りの足を確保しなければいけないということでこれまで対応してきましたが、この波田には梓川高校があって、この梓川高校生の皆さんの通学の利便性、料金の話もありましたが、高校生の視点から、もう少しこうだったら便利になる、あるいはこういう改善ができないかということについて、もっと私達の方から出向いていって、そしてしっかりご意見、ご要望を聞くことが今お話しながら必要だと思いました。

１回は説明に行ったということでしたが、改めて来年４月からどうなるのか、そして見直しをした上で、さらにこういうことが要望としてはあるということをちゃんと聞かせていただくように、私達の方から出向いて、学校の先生方や生徒の皆さんとお話しする、大きくバスのあり方を変えようとしていますので、そうした機会を作らせて頂きたいと思っています。

太田

今、高校生だけじゃなくて、中学生も、波田中だけじゃなくて、よそに出たりするのですよね。

だから、学生とかに使う分の支援というものが、市独自で交通費なり何なりっていうものが使われる状態を作っておくと、それが親に対する支援になるし、そこのところの市だったらそんなことまで手を伸ばしてしてくれたのだっていう。ここに住んでいてくれた人たちの広告塔にもなっていくと思うので、子供への支援というものはちょっと率先して、そんな莫大なものは求めないにしても、市独自の学生割みたいなものがあってもいいのかなと思いました。

あとバスのことなのですけれども、バスも確かに利便性があって、自分の行きたい時間に乗っていけば乗れるというものだと思うのです。例えば、近所のその辺に行く人に相乗り、というものに対して、市独自のチケットみたいなものが出れば頼む側も、罪悪感がないのかな。

こういうのがあるからさ、これあげるかちょっと一緒にスーパーとか、それ以外のところでの買い物に行ければ、お金をもらうと多分二種免許とか交通の問題も発生するのかなと思いますが、どうにかできるようなシステムが同時進行であったら、足を確保するっていう上ではいろいろ考え方があるのかなと思ったもので意見言わせていただきました。

市長

太田さんから二つの点で貴重なご意見いただきました。

まず１点目のやはり中学生や高校生の交通費への支援ということ。

今まで福祉１００円バスとかそれは上高地線にも適用されますが、高齢者の皆さんの移動のための補助金というか、その助成というのは、あったのですが子供に対しては、基本的には奈川あるいは四賀といった部分に対して何らかの目を向けるところがありましたが、波田の上高地線と、例えばＪＲが料金を抑えられていて、その比較考量をどうするか、距離は実は近いのに上高地線利用すると高くなってしまうというような問題がこれまでなかなか真正面から取り組んでこられなかった経過があります。

先ほどご指摘いただいた子供たちが、自分たちが育っているときに市からこういうサポートを受けたのだということが、将来の定住に繋がることまでも見据えれば、どういう助成のあり方が適切なのか、必要なのかということは、ぜひ松本市しても検討する必要があるのではないかと考えています。

もう一点のいろいろな移動の手段というものが、組み合わせてできないかという話で、それは本当におっしゃる通りで、今回、先ほどの幹となる路線バスの再編、バス、その先にある、言葉としてラストワンマイルという言い方をさせていただいますが、バス停からの枝葉だったり、あるいはそのエリアの中でバスとは違う移動のあり方を、それぞれの地域で考えていただく、それに対して松本市行政側が、何らかのサポートをしていくということを今回はいろいろな形で検討を始めていて、その一つは先ほどの梓川でモデル地区ということでもございました。

相乗り方式ということで近いものでいいますと、新村でそれに近い形のものをやっています。

地域によって、運転者が確保できそうなところだったり、いろんな特性に応じたやり方があると思います。相乗り方式あるいは先ほどタクシーとバスの中間的なもの、スマホやインターネットを通じて予約ができるような状況の構築、オンデマンドというそのときそのときに必要なところを回るという方式がこの地域公共交通でも取り入れられそうです。いろいろな方式をどう組み合わせていくのかということに対して、交通部あるいは交通専門家とともに地域の人たちと考えていく、それに対して、自力で全部回せない場合に財政的なものがどこまでサポートできるか、ということをこの波田だけではありませんが、いろいろな地域で考えていきたいと思っています。

それと先ほど温泉のお話ございましたが、ようやくコロナの感染と向き合いながらいろんな施設やイベントを再開するという流れになってきておりますので、改めて竜島温泉の状況を把握させていただいて、ぜひ地域の皆さんが楽しみにしている、この状況の早期回復それはまたバスのあり方も連動するというお話しで改めて指示したいと思います。

②農業の未来について

ア　意見発表　「波田地区農業未来会議設立について」

波田地区農業未来会議　輿副会長

波田地区農業の現状

波田といえばスイカ。スイカは、この波田地区において半世紀以上前から栽培されています。

当初は下原地区においてスタートされたと聞いている。その後、国の農業政策により米の生産調整があったが、波田地区については、自主転作ということで、強制的なものは全くなく、スイカという産業があったことによって、実践策で乗り越えてきました。

販売額につきましては、波田地区のスイカ農家１００件ほどで約１２億円

農協の波田支所の数字は、全体で２４億円ほどであるので、約半分がスイカという状況です。松本ハイランド農協全体では２００億円くらいの販売額であり、単品では最も高い数字の２４億円がスイカという状況です。

ここまで発展してきた経過としてはやはり、転作という中、水が農地に供給されてきたということも、産業の発展に繋がってきたかと考えています。

取り組まなければならないこと

農業所得増大への方策としてどんなことを取り組んでいくのか。次に、荒廃農地対策や中心経営体への農地の集積。また、生産基盤整備、バランスの取れた農地の流動化など非常に多岐に渡る。

これらは、松本市の農業振興計画の内容とよく似ている。農業振興計画の課題それから基本政策、ほとんど我々のやろうとしていることと重なっていると思っています。

（収穫直前の田）

農業未来会議の設立経過

波田地区においても農業関連団体、農業委員、それから水利を管理する各改良区、それから販売また生産指導を行うＪＡ、生産する農業者とそれぞれの立場があり、また組織も別々である。

今抱えている課題、特に水利基盤の関係については、老朽化が激しいということもあり、一つ一つの組織で解決することは非常に困難だというように判断し、農業関連団体が一体となって課題解決に向けていくという取組みを具体的に、実践的なものにするには、やはり一つの組織にまとまることが大事だろうということで、農業未来会議の設立に至りました。

立ち上げて４カ月ほどということで具体的な活動は、役員会を３回、全体会議を２回行いまして、農地の流動化対策、荒廃農地対策、波田堰の改修事業に向けて取り組んでいるところです。

非常に大きな課題がある中で、地域が力を合わして取り組んでいこうということが、この未来会議の設立に至った経緯であります。

未来の農業を担う人のために

農業は、特に天災、天候や災害に大きく影響を受ける産業でもありますし、厳しさもあります。

現在の私達が未来を担う人たちに、希望を持って農業に従事し、その中で喜びを感じていただけるような環境を整えていくことこそ私達の責務ではないかということで、先を見つめ取り組んでいこうということになりました。

この後、１１月以降また冬場にかけて、いろいろな農業者と、懇談会を開く中で、未来に向けてのご意見を聞き、地区としてどんな取り組みができるかということを考え、それを実践していくという組織にしていきたいと考えております。

松本市の行政からどのような支援がいただけるのか分かりませんが、先ほど申し上げました農林業振興計画とほとんどが目標を同じというふうに見ておりますので、いろんなご助言をいただいたり、ご指導いただいたりする中で西部地区波田の農業振興が今後も継続できるようにご協力をお願い申しあげます。

イ　意見発表　「波田地区農業未来会議の活動について」
　　波田地区農業未来会議　塩原会長

今後の活動

先日、未来会議を開きこれからどうしていけばいいか、活動内容がある程度決まりました。この場を借りて４点ほど、その活動内容について説明させていただきます。

①「貸したい農地の募集と情報公開」

農地の活用に伴う情報の収集につきましては、ＪＡ松本ハイランド波田支所営農生活課が受付窓口として行い、貸したい農地情報を公開し、借りたい方へ情報提供をする。その後、中間管理機構等を通し、貸し借りの契約について支援していきたいと思っています。

この取り組みは、認定農業者や、中心経営体に集めることにより農地の集積率の向上に繋がるのではないかなと思います。

②「波田地区の農業の未来像という目標の設定」

松本市の農林業振興計画および人農地プランをもとに、波田地区独自の将来像についてワークショップを開きたいと思います。

借り受けの人や作付け作物等一定のルールを作るということで、大勢の方から意見を聞きながら農業を発展させ、次世代に繋がる振興施策を展開していきたいと思います。

③「荒廃農地パトロール」

現在、波田地区農振協議会の農地部会が中心となりまして遊休農地のパトロールを実施しておりますが、農業未来会議が発足したことにより、農業未来会議が担うことがよいのではないかとなりました。

農地パトロールは農業委員の責任の一つであり、波田地区各土地改良区の問題でありますので、通年活動を行っております。早期に荒廃農地を見つけ、貸し借りへ繋げることがこれからの農地の保全に繋がるのではないかということで、取り組んでいきたいと思います。

（耕作されていない畑）

④「水路の老朽化」

波田地区は複数の土地改良区があり、耕地、水路水等を維持管理しています。特に、波田堰土地改良区では昭和４３年から圃場整備が始まり、もう５０年以上経ちます。水路や施設の老朽化に伴いまして、亀裂などが入って水漏れがしております。安全が低下しているとともに、施設の維持管理に支障をきたしております。

（改修が必要な水路）

毎年、老朽箇所を補修していますが抜本的な改善に至っておりません。水路の改修を行うにあたり、地元負担を軽減するためにも農地の集積集約率の向上が重要となっております。

農地の流動化の促進、農地の集積、集約を行うために、農地の貸し借りに関する一定の基準を波田地区全体で共有するために、地区内の農業者と土地改良区、ＪＡが集まり農業未来会議を組織いたしました。

農地の貸し借りなどの申請や補助事業の申請等につきまして、未来会議ができない点が多々ありますので、ぜひ市のご指導ご協力をお願いしたいと思います。４点についてこれから活動していきたいと思いますので、いろいろご指導よろしくお願いします。

ウ　意見発表　「波田地区の農業の特徴について」
　　波田地区農業未来会議　大月会計

波田地区農業の現在に至るまで

農業は、重労働の割に生産性の低い産業であると昔からよく言われています。かつては工場を誘致して、いわゆる雇用の受け皿としてその地域、地域で活性化させるといった手法が各全国いろんなところで取られていました。

ところが、今バブルもはじけて、デフレと言われておりましたけども、そういった中で、工場を誘致してもなかなか利益が上がらない。これから農業の未来、各地区の未来を考えたときに、農業が地区の雇用の受け皿もしくは基幹産業となって、地域を活性化していくという手法がとられる未来が想像されます。

波田地区の農業の現在に至るまでということで、大きく分けて三つに分けられるかなと私なりに分析しました。

①「開墾の時代」

明治初期から戦後食糧難の時代です。

歴史的に見ますと明治１６年下原地区が開墾された。昭和２１年中下原に開拓団が入り開墾。また開田と言われる地区もありますけども、そちらも昔は松林で覆われていていた時代があったわけですけども、そういったところも水田がちらほらとできてきた時代がいわゆる明治初期から戦後という時代だと思います。

②「農業近代化の時代」

戦後から昭和後期バブルまで。

内容としましては、県単もしくは国等々の補助をいただきながら水利事業、例えば圃場整備事業がいろいろ行われてきた時代であります。

また大きな事件と言ってはなんですけども、昭和４５年米からの転作ということで減反が行われた時代でもありました。

そういった中でこの地区ではどういったことが行われたかと言いますと、もちろん圃場整備は行われたのですけども、いわゆるスイカ等々への自主的な転作ということが行われてきた背景があります。

それで共選所、スイカの共選所、果実共選所というものがいわゆる近代化の波に押されながら波田地区にも続々と出てきてできたという時代でありました。

③「農業多様化の時代」

昭和後期から現在に至るまで。

この波田地区においても恋人の丘サラダマーケットといったように、かつては農協に出荷するのみ、または自家消費するのみ、また縁故米といった流通ルートしかなかった時代から、直売所に自分で作った農産物を運んで売るといったことが行われてきた時代で、または味工房に代表されるように、農産物を加工して販売する、いわゆる六次化ですけども、そういったことが行われてきた時代であります。

また波田で大きな転換期となったのが、平成１２年７月５日の降雹です。あと３日２日ほどでスイカが収穫というときに降ったわけですから、ほぼ全滅という事件が起きました。これがターニングポイントとなったような気がします。スイカ一辺倒の農業構造から、ネギとか葉野菜等々にリスクを分散化してったということが行われました。現在の波田地区の農業がどんなものになっているのかといいますと、スイカをはじめとした様々な農産物が作られております。

いろいろな農産物ができる

いろんな地区の農業者といろんな話し合いを持つ場があるのですけども、この波田地区というところは非常に恵まれている土地だと感じます。

もう何でも作れる、スイカをはじめとして長芋も作れますし、いろんな葉野菜や果樹も作れます。いろんなものが作れるこの中信平の西部地区という場所でございます。なぜここが、これほどまでに農業が盛んな地域なのかと言いますと、標高が６００から８００メートルということで、昼夜の寒暖差が非常にあるということ。昼夜の寒暖差がありますと、糖度が乗ったりでんぷん質を蓄えやすかったりという植物の特性がありますので、そういった意味で品質も高い農産物ができやすい。

関東ローム層に近い黒土、有機物を含んだいわゆる火山灰土ですので、非常に農産物が成長しやすい土壌条件があるということが言えます。

三つ目として、中信平全部でいることですけども非常に晴天率が高いこと。この三つの条件が揃っている波田地区は非常に品質の高い農産物ができやすい。

後継者ができやすい地域

後継者が青年部を組織しているのですけども、登録数が長野県、全国でもかなり上位クラスになると思うのです。５０名近い部員がいるということで、後継者が非常に多く、全国から新規就農者の集まりやすいという場所。

今のところ全国のいろんな地区に比べますと、遊休荒廃地というのは非常に少ない場所でありますが、波田の未来を考えたとき、高齢化も進んでおりますので、荒廃地の増加も懸念されるかなというところです。

そういった意味において、波田地区は農業の未来に非常に希望が持てる地区ということで、いろんなご支援をお願いいたします。

市長

波田の農業の歴史から、今一番直近のそれぞれ農業に携わる皆さんが一元的に新たな組織を作り、それから、これからより深刻さのある課題に向き合いながら、先ほどの言葉で言えば品質の高い農産物を作って、雇用の受け皿、基幹産業にもなりうるようなそうした収益力がある農業に向けていく、そうした皆様のまとめてお話しいただきました。

一番その根底にあるのは自主転作をしてきたという波田という村や町の時代から皆さんがもってこられた、新しい事に挑戦していく気風といいますかそういうものが逆に受け継がれて今に至るのだなあということを感じたところであります。

波田の場合は、１００軒で１２億円という出荷額を誇るスイカという高付加価値の作物を有しながら、そしてリスク分散もしてきたということで、松本においての農業というのは、大きな可能性を感じながら、そうは言っても非常にマイナスの話も市全体でいえば少なくありません。

そういう中で未来にあるいは毎日が物をどう松本で生み出していくかというときのモデルといいますか、先を走っていただくのが多分波田地区の農業ではないかと再認識することであります。

先日長野県の農業出荷額の一番がリンゴからブドウに変わったという情報を耳にしました。シャインマスカットなど皮ごと食べられるブドウが非常に高価格で消費されるということ。

下原のスイカはその先駆けでもあるかなと思いますが、農業といえば米作りだった時代から、収益を上げる魅力的な作業の可能性というものをそこで感じる場面は非常に多いので、ぜひよりもっとこの伸ばしていくためには何を行って、我々がやればいいのかということを示唆していただき、提案していただき松本全体の農業の底上げに取り組んでいきたいと思います。

産業振興部長

先ほど塩原さんの方からあった、貸したい農地の集約の課題であるとか、それから未来像をどういうふうに目標設定するのかとか、農地のパトロールどうしていくのかっていう課題はまさに直結してくる課題でもあり、成果に繋げなければいけないと思っております。

それから水路の改修についてもそうですが、今、県営灌漑排水事業でここの長年の土地の課題である排水に関しまして、梓川へ出せるような形で３３億円ぐらいかけて今やらせていただいています。

その前は頭首工、取水をやらせていただいて大きなものに関しては当然皆さんの理解をいただきながら、国も県も市もやって、その中に必要な地元負担を仰いでいくっていうこと。支線の管理に関しましては、その賦課金なりを徴収いただく中で計画的に直していくということなのですが、そこは大原則だと思っています。

例えば、多面的機能交付金とかそういったものを計画いただければ、５年間で総額２００万円とか、それから市の事業を使うとか、市の事業も今まではどうしても応急処置的に壊れたところっていうことに、今度は長寿命化ということも入れて、事前に示していくことも考えていきたいなと思います。

水路については本当に生産基盤の部分なので、皆さんにやっていただかなきゃいけない部分もありますし、我々としてもやらなきゃいけない部分もあります。緊急性の高いものはぜひ壊れる前に、耕地課等へご相談いただければと思います。

シャインマスカット等ブドウで結構新規就農者がいらっしゃるのですけど、５年経った後も元気ですし、二世がＵターンで帰ってこられている人たちがネットワークを作っています。

実は収穫のときに一番大変なはずなのですけれども、やっぱり元気っていうのは非常にいいなと思っています。

これから若い人が志してくれるというのが、実は外からの人を呼び込むことや持続性を持たせるということで、波田の皆さんがこういう形で精進的にやっていることについて、ぜひ我々もサポートさせていただきたいと思います。

意見交換

太田

コロナが始まったときに自分は支部長だったのですよね。

そうなったことによって会議等全て無しになり、青年部活動というものはできない状況になったので、今まではやってなかったのですけど、携帯の普及によりラインでグループを作り、文書配布後その中でラインの会議、投票もしくは意見交換等全てやるような状態で活動しています。

支部長になってこうゆう会議に出させてもらって、いろいろな問題が出てきているなと思ったとき、放棄地問題があり、確かにパトロールしているけど、それを注意するだけしかできない状況もあるのですよね。人の土地なので。

これって市としてのある程度何か条例みたいな手をつける方法、貸せられる方法そのようなものがあれば、その数年間手をつけることができるのです。

また、手をつけられない人も、その人なりの、ある程度の問題があると思うのです。

例えば、やっていた人が亡くなったとか、いなくなったとか、機械がなくなったとか、残った人は運転ができないとか、何かしらの問題があって放棄地はでき上がってきていると思うのです。

今、若者も多い波田の中でも年間で５・６件の農家が辞めています。

この農地の面積の半分以上を７０歳以上が、若者も多いですけれども、それよりもまして高齢者の方々が頑張っているっていう状況は、間違いないと思います。

年間５件から６件が止めていくと、大体１件あたり、１町歩の面積が空いてくる状態になるのですよね。そこを率先してやれるのかって話になったときに、自分たちも、会議に使うようにみんなにアンケートをとるのですけども、増やしたいって人ってほとんどいないのです。その理由っていうのはまず自分の家の耕作面積で精一杯です。

どうしたら増やしたいって考えたときになったら、労働者が欲しい、でも頼むにしても、季節労働者っていうのは何か問題になっていて、ハローワークとかシルバー人材センターとかいろいろなところに当たっているのですけれども、それができたら、市の方でもそういうので動いてもらうと嬉しいよねっていう意見も上がってはきていま。１年働く人も、安定収入になるためには、常に仕事が欲しいと思うのですよね。

でも自分たちは季節のものを作る上ではそれができないので、ここ行ったら次、ここ行ってよ、みたいなグルグル１年間回れるようなシステムがあったら、そういうのも斡旋してもらえるようなこともあったら嬉しいなっていう意見が出てきています。

また放棄地の維持管理っていうのは、只ではできないのですよね。それを起こすため年間１枚の畑起こすにしても、３回から４回ぐらいは起こさないと草ぼうぼうです。それ以上ほっといた場合、木が生えてきたら終わりなのですよね。

そこを新規就農者に貸せるのかっていったところで、それを借りたい人はいないし、土地拡大を考える段階になってもなかなか厳しい。

誰に起こしてもらうとなったときに、近くの農家の人に頼んでやってもらうにしてでも、そこは只というわけにはいかないので、そういう助成みたいなもの、土手の草刈りもそうですけれども、そういうものがあると、頼みやすいというか、逆に受けてくれる人もいるかもしれないので、そういうのがあったらいいな。

またその青年部の中でも数名新規就農者がいるのですけれども、その中で何一番困ったという時に機械代とかになってくるのですよね。だから辞める方がいれば入る方もいるので、ヤドカリみたいな感じのシステムを作ってもらえないかなと。

今、里親制度あると思うのですけど、それとちょっと違う、１軒の家にその１人が行ってそのままその土地なり機械なりをそのまま受け継ぐ、全くの他人の人が。そういうようなシステムがあってもいいじゃない。

現に自分の高校の後輩はそれと同じような形になっていますけれども朝日村の方で、建築業というかハウスメーカー辞めて、農業やっています。

そういうようなシステムがあったら、嬉しいな。そういう季節労働みたいに就職の受け皿になるっていうのは間違いないなって、家族経営っていう状態がなかなか厳しい家庭っていうのも出てきているのは、現実問題なのですよね。

お父さんお母さんがいて、自分と自分の嫁と子供がみんな働いている家庭もありますけれども、それも厳しいよねっていう場合もあるので、いろいろな選択肢としてそういうようなものがあってくれると嬉しいなって思います。

未来あるちょっと夢のある仕事だと自分は思っていますので。ぜひお力添えがあったら嬉しいなと思います。

産業振興部長

耕作放棄地の問題に関してはおっしゃる通りで、その農家としてやれなくて荒れて、条件悪いことも含めてその所有者がはっきりしているものと、相続とかいろいろなものでわからなくなって、結果として手につかないとか、そこだけは水路が傷んでいるとか、いろんな課題があるということで、今その特効薬っていうかそこが正直ないのです。

ただ今回人農地プランの中で全部の目標地図っていうのを作ることにしているのです。それは、農業委員会の皆さんが行政の仕事としてその目標地図を定めて全部の農地に対して耕作をしている人だとか、これからする人だとかそういう１０年スパンできちんとその農地に位置づけをしていきましょうっていう作業これから進めていくことになります。

市としても課題として認識していますが、その所在地不明じゃなくて、その遊休ぐらいのものであれば、そんなに大したお金ではないのですけれども、市としても一応助成はするような形で、重機のお金だとか、一定のものは助成できるようなものがある。程度によってということもあるのですけれど、やっていただくのは何らかの形で皆さんという形にはなりますので、ぜひご相談をいただければなと思っています。

２点目の人材季節労働関係で、これ松本の季節的なものもあるのです。松本市で農業法人化がなかなか進まない、という課題に対して一番大きいのは、１年中働けないっていうところがある。

季節性を持っている畜産は別ですけれども、農協さんも我々もアグリサポートみたいなものもあるのですけど、例えば農協の場合は、選果場での仕事とかを組み合わせながら、できるだけ雇用しているようなことがある。里親制度っていうのはあったのですけど、就労の人たちは技術がつかないとどうしてもお金が稼げないっていうこともあるので、そういうところは組み合わせていくとか、そういったものを考えていく必要がこれからあるかなと思っています。

それから就労の皆さんの機械代に関しては、実はこれ今、国も結構そこは手厚くなっていて、市はその国の助成に合わないところはいろんな形で補助率を上げて今やっていますので、そこはお呼びいただいて、未来会議でも結構ですし、団体レベルでも結構です。

こんなことが実はあって、国はこういうことをやっているし、県もこうゆうことがあるっているのは、是非情報としてお繋ぎさせていただいて、こんなのはどうなのって言ったときに、やっぱり中古でいくのか、新品でいくのか、長く使うものなのか、頻度が高いのかっていうのは、ここの皆さんの判断になりますけど、道はあるというふうに思っていますのでまず制度の説明させていただけたらと思います。

市長

太田さんの話の中で、松本市の仕事だよなと思ったことは、労働したいが、季節労働にしかならない。

そうすると、人が結局なかなか集められないというその部分で農業と他の仕事といいますか、それはサービス業だったり。ある年代以下の人たちが複数の仕事という意味で、副業というような形で働くことを組み立てている人たちは決して少なくなっていないと思います。

そういう人たちがいつだったらそんな仕事ができるという登録、プラットフォームという最近流行の言葉でありますが、農業、仕事に対して松本市なら私はいついつどこへ行って、いついつは何時間働けます、どういう季節だったら働けますというようなことも情報の雇用のプラットフォーム、

そういうものを仕組みといいますか作るということが実は農業の皆さんでできることじゃありません。また厚労省のその雇用部門ができることではなくて、地域の皆さんの農業の実態と、そして松本市全域についての、他の部門での働いている人や市民の皆さんを繋げてなんとかトータルとして農業に関する雇用量を確保していくような、そういうことは簡単じゃありませんけど松本市が農業政策として実は一番やらなければならないこと、そしてそれができれば、いろんな問題点がいい方向に解消していくのかな。太田さんのお話の中では一番印象に残りました。

また、それどうやって考えて行くかということを、ぜひ農業部門を超えた課題として松本の産業政策、雇用政策の一つとして、受け止めなければいけないと思いました。

それと、ヤドカリ制度という素敵なものも非常に現実問題として、いろんな形で、機械や設備を蓄積されてきた世帯が農業そのものは引き継ぐ方がいない。一方で初期投資に非常にハードルが高いこの農業に、もしその初期投資のような部分が大きく低減されるのであればチャレンジしたいと思っている人たちもそこには少しずつですが、若い人たちが志す産業の息吹は今出つつあって、特に波田であればそうしたことを若い人たちがイメージしてもらえる状況にあるとすれば、ヤドカリ制的なものを実現するためには何をクリアしなければならないのか。どういうことで手放す、引き継ぐ側からすれば、ハードルが何で、そのハードルを下げるために情報や資金や行政がやれることは何かといったこともぜひ実際の制度として実現できるような検討をする価値のある話だと思いました。

今の二つの事例だけ見て、ももちろん補助金を出す資金面のことというのも、農業政策の柱ではありますが、もっと我々がやれること、やるべきことが、それ以外の人と人を繋ぐ情報を使う行政だから、そしたら繋ぎ役がいろんな分野を超えてできるということが今必要とされている農業政策の一つ大切なことだなと感じました。

輿

（山際の農地）

松本平で考えてみれば、波田地区、奈川、梓川、東山部いろいろ山に囲まれている中で、中山間地であり、農地がかなり荒れてきているっていうことは事実です。今の農業自体がやはり生産性効率を追求しなければどうしても収益が確保できないことから、そういう農地がもう置いてかれているという中で、水田の転作については、ある程度国の政策で補てんがあるわけですけれども、畑については全くそういうものがないわけです。ぜひ研究していただきたいなと思っています。

そういった中山間地の誰もやりたがらない畑に、例えば松本市の伝承野菜ありますよね、たしか十数品目あったと思います。標高がありますので、山菜みたいなものを栽培したとき、何らかの施策みたいなものがあれば、ちょっとベンチャーとかになるのですけれど、コロナが収束していずれ観光客が大勢来ればやはりホテル、旅館、居酒屋等では山菜はかなり売れると思います。

ぜひそんなところの研究をしていただいて、隙間産業的な部分もありますけれど、ある程度中高年高齢になってきてもそういった山菜の栽培、出荷なり販売に繋げるっていうような農地の活用法ですね、これは松本市の政策として考えていかないと、国の政策はちょっと無理だと思いますので、研究していただけたらなと、これは要望です。

太田

今農業をやっている家庭があるじゃないですか、そんなところではやっぱ高齢化ということに対して人手が、自分も体が動かなくなってきてつらいとなったときに、じゃあ息子がってなったときに、出てっちゃっていない、やめるしかない、そうなったときにそこのところで働きに来てくれる若者がいてくれる、もちろん働くのだったらこっちが給料払うよねっていう、そこで普通に人を雇うっていう状態が人を育てるっていう状態なのです。

そうなるとこっちはそこで農業を教われる。なおかつ、そこの人が今まで積み上げてきた土地とかの利用も可能になる、ゆくゆく。その機械が動いても、じゃあやめるかって言ったらどうするといったらもう売るか何かするしかない。

でもそれを引き継げる、新しく買うのであればそれは補助金なり、なんなり新規就農のいろんな制度もありますんでそういうのを使えばいいので、自分がそれを市にお願いするのはマッチングをしてほしい。やりたい人と、受けたい側がマッチングできるようなところがあって、もしその若手の方が年間通して欲しいのであれば、先ほど出た話では冬場の間とか、作らない時期での収益っていうみんな働きに出ているので、働きに行けよって話にはなるかもしれないですけど、そこら辺のところで補助金が何だかというよりも、マッチングできるようなものがあってくれれば、いいかな。

それを増やすにしても何するにしても、土地がないってなったときに荒れているところを若手にやれよって言われてもできないということで、補助金がほしいとかとかそういうので出してくれじゃなくて、ただマッチングするようなシステムがあったらいいな。自分がもし歳をとってあれだったら土地は残したいのですよね。土地は引き継いで欲しいのです。草畑にはしたくないのです。誰かがやってくれたらそれだけでも嬉しいという気持ちがあるので、そういうシステムがあったらいいのかなと思いました。

市長

事業継承という言葉が今商工会議所などでも盛んに使われて、血縁関係に継承をする可能性がないケースで、今のマッチングをどうしていくかということがサービス業や飲食業やそうしたところではいくつか前例が見られますっていう、そういう小さな例ですが、私がよく行くお店は先代の方が年取られて、ある段階で従業員に新しく来た人たちに、ぜひその俺の後を引き継いでくれないかということになり、そして、いわばヤドカリ的に建物すべてを引き継ぎ、そして今、その方が同じ看板で代が入れ替わっています。

農業が、そのことが今まで少なくとも私達の感覚でいうと難しい。やはり代々農地をその土地で、あるいは家族で引き継いでいく、いきたいという気持ちが強い状況の中であったと思いますので、そこがようやく先ほどの流動化という言葉があったり、今変わりつつある。このことに対して、先ほどそのマッチングのためのプラットフォームという情報の受け渡しの役割をやるのが私達の大きな仕事だというふうに感じているところでありまして、今太田さんのご説明を受けながらそれをもう一つ十分研究しなきゃいけないと思っています。

野竹

レベルの高い考え方を持っている若い人たちがこの地区を、農業をどうやって発展させていくか、またよそからどうやって人を呼ぶかっていう部分そんなことも含めて。波田は７，０００町歩という大きな山を抱えていて、水が滔々として肥沃の大地を潤しているっていう形で、農業もやっぱ水は一番大事なことであります。

そこから果樹、スイカ、他所にない肥沃の土地を効率よく、さらに効率よく使っていただいて、

これからの農業にたずさわる方がすごく魅力のある地域ではないかということを、これからの若者もまた築いていただきながら。

水路の関係もございます。もう水路もかなり開田あたりはU字溝が傷んで、漏水しています。先ほど輿さんの方からとか、また産業振興部長さんの方からやっぱその辺のところを後追いにしなくてちょっと早めに制度を使いながら直していただければ、農業に取り組む人たちも考え方が発展してくれればと思います。そんなことで是非力を貸していただき、この地区の未来のためによろしくお願いしたいと思います。

産業振興部長

２点について、１点目の中山間地の畑地に関しましては、伝承野菜っていうのは、なかなか生産量の問題もあったり、この中山間の特に畑地については、元々は桑畑であったと思うのですけど。この課題は、ちょっと我々としても伝承野菜についてはなかなかうまくいかないとありまして、そのまま生食というものってないので、だいたい加工に回るとか事業者の位置づけ等も確認する必要がある。それは検討していきたい。

水利についてはもうその通りで、ただこの梓川の恩恵もありますし、波田の皆さんの財産区なのですよね。その山林とかそういったものの恩恵を、当然土壌の問題もあっての非常に適地であって、発展されていると考えております。そこは市としても地元の皆さんとどこをどういうふうにするのだっていうところをすみ分けながら、取り組んでまいりたいと思います。

中野

広報松本に各部の補助金とか制度、ホームページでわかるのですけど、紙ベースでなければいけない人間もいますので、特集を少しずつ出していただくと、今こういう制度があることもわかると思うのですよね。

それと私の畑は中下原というところなのですけど、そこが、最近、猿、猪、熊、キツネ等々鳥獣がものすごく出るようになりまして、その巣は先ほどから言っている荒廃地なのです。

それに対する補助金制度も確かあるようですが、２・３世帯以上まとまらなければ、補助金をもらえないような制度のような気がしたのです。ぜひそういう制度を教えていただけるとありがたい。

市長

まず補助金の情報提供については広報松本でも、ホームページでもよりわかりやすく、そしてできるだけ頻繁に掲載することを心がけてまいりたいと思っております。先ほどの雇用情報とかもそうですが、市役所の一番の仕事、あるいは、一番は市役所が持っているものは情報であります。

それをどう必要な方々にできるだけ早く常時お届けする。そしてそれを繋げるということが何よりも私達がこれまで必ずしも十分じゃなくて、また一番やらなきゃいけないことだって認識を持っております。補助金についても、しっかり取り組ませていただきます。

産業振興部長

鳥獣害についてですが、駆除の関係も含め、センター長を通じて、ご案内いたします。

太田

今出た意見で、確かに市の方は情報を持っているとそれを発信どうするかっていうので、現段階で青年部の方と農政課さんの方からとラインで繋がる部分があって、そこから独自に情報っていうのは最短で来るようになってきている。

もしそれが市民皆に、というのであれば、現段階で全員ってわけにはいかないですけれども、スマホの普及率って大体８割以上ですよね。そんなときに、みんな持っていると思うので、メールぐらいはできるのですよね、多分そういうのは安心ネットみたいなものもあるじゃないですか。

求めてなくても目に入れば、こうゆうのがあったよねというのが今はどんどん入ってくる時代なので、そういうのを活用してもらえると、自分も支所に行かなくても得られるっていうのはあるのかなと思いました。

市長

求めなくても必要な情報がそれぞれの皆さんに送れる、最近の呼び方としてはプッシュ型の情報と呼ばれておりますが、今これもやはりまだ十分私達がピーアールできてないことが一つ課題であります。

松本市の公式アカウントのラインを使って情報をお届けするというやり方を今年に入ってスタートして、今登録者が７万人ぐらいいらっしゃいます。

もし全てが松本市民だとすれば、３人から４人に１人の皆さんに登録をしていただいていて、そこには住所、年齢、そして自分が欲しいと思う分野の情報を選んでいただく。

そうしますと我々から発信するその地域の情報は選んでいただいた方のところにプッシュ型で行く、あるいはその農業とかあるいは観光とかっていって、それぞれ我々が発信するものについて、その方々のところにプッシュ型に行くということを始めております。

ただ、おそらくまだ登録者を目指すところは全市民ということですし、またそういうことを広げていく中で、よりもっと今そこで送らせていただいている情報の量では不十分なぐらいなことになっていんじゃないかなと思います。

スマホを使わないまま出せない方もいらっしゃいますので、紙での広報ということも継続しながら、一方で、やはり早くそして居ながらにして情報を受け取っていただけるのは、今のスマホを通じた、ラインをはじめとした、情報ツールを使うことが、やはり非常に便利になっております。まだ登録していただいてない方には松本市公式アカウントを登録していただいて、そしてこんな情報じゃ足りないとご要望いただければ、よろしくお願いします。

司会

本日は大変長時間にわたりましてご参加をいただきましてありがとうございました。これからの波田地区の地域づくりいたしましてもぜひご協力をお願いいたします。ありがとうございました。

（以上）